

## 日本ブランド発信事業 報告書

### 「日本のまんが・少女まんがの魅力」

2019年5月  
漫画家・萩尾望都  
編集者・古川麻子

.....  
<事業概要>

英国の大英博物館で開催される「The Citi exhibition Manga マンガ」展に萩尾望都の作品が大きく展示されるこの機会に、あまり日本の「マンガ」が浸透していない英国でまんが、その中でも特に「少女まんが」の魅力を広く発信することを目指します。

<スケジュール>

5月18日（土） 東京発，ロンドン着

5月19日（日） 大英博物館内 15：00～18：00

翌日のジャパン・ハウス ロンドンでのトークイベントおよび5/23の在英国日本国大使館講演の打合せ。（大英博物館＝ニコル・ルーマニエールさん，内田ひろみさん他。ジャパン・ハウス＝サイモン・ライトさん，大使館＝才木薫さん，陶芸家・細野仁美さん）

5月20日（月） ジャパン・ハウス ロンドン

14：00～ 打合せ

18：30～20：30 講演会，ネットワーキング・レセプション

5月21日（火） 大英博物館

12：00～13：00 メディア取材

18：30～20：00 マンガ展オープニング式典

20：00～22：00 晚餐会（萩尾望都のみ参加）

5月22日（水） 大英博物館

14：00～15：30 大英博物館視察・研究者と交流

14：30～16：30 メディア取材

5月23日（木） 在英国日本国大使館

16:30～17:00 打合せ

18:30～20:30 講演会・記念イベント' The Power of Shoujo Manga'

20:30～21:00 レセプション

5月24日（金） セインズベリー日本藝術研究所

17:00～17:30 打合せ

17:30～19:00 ワークショップ

19:30～21:30 意見交換夕食会

5月25日（土） ロンドン発

5月26日（日） 東京着

#### <活動概要>

##### ● 5月20日（月） ジャパン・ハウス ロンドン

ロンドンのケンジントンに所在する、日本の文化を含む多様な魅力を発信する施設・ジャパン・ハウス ロンドン（JHL）に於いて、JHL企画局長のサイモン・ライトさんの司会で萩尾望都・古川麻子ともに登壇し、萩尾の今までの実績や漫画家としての活動および「少女まんが」とはなにか？漫画編集者の仕事はなにか？ということをお話した。大英博物館で全ページ展示される作品『柳の木』を作者みずから解説しおわると会場からは拍手が！ 客席は日本人英国人半々くらいで熱心な質問もあり、とてもアットホームで熱を感じる中でまんがの魅力を伝えられた有意義な時間でした。

##### ● 5月21日（火） 大英博物館

昼に大英博物館「The Citi exhibition Manga マンガ」展（5月23日～8月26日）の会場にて、海外メディアの取材を受けました。日本国内の『芸術新潮』の「萩尾望都特集」の取材班も来ており、作品のまえで今回の展示会のキュレーターのニコル・ルーマニエールさんとともににこやかに取材に応じました。夜は展示会の関係者が一堂に集まる華やかなオープニングレセプションに出席し、鶴岡駐英大使夫妻・岡田公使夫妻にご挨拶したほか、まんがに関わる人々と交流を深めました。萩尾は公式晩餐会にも出席。

##### ● 5月22日（水） 大英博物館

館内のキュレーターに修復中のミイラやミケランジェロの絵画に関するレクチャー

を受け、また大変貴重な浮世絵や版画のコレクションも拝見し、まんが制作の意欲につながる大変有意義なご案内を受けました。そしてメディアによる取材にも応えました。

● 5月23日（木） 在英国日本国大使館

大使館主催で開催しているマンガコンクールの受賞作品を拝見し、その後、大使館主催の記念講演イベント’The Power of Shoujo Manga’を、大英博物館のニコル・ルーマニエール教授の司会のもと、萩尾、古川、陶芸家・細野仁美氏と登壇し、まんが、特に少女まんがの魅力と潜在的な力についてトークをしました。ゲストは主に日英交流関係者と日本の版元関係者など。招待制。ネットワーキング・レセプションでもさまざまな方と交流し、まんがの魅力発信に努めました。

● 5月24日（金） セインズベリー日本藝術研究所（ノリッチ）

ロンドンからノリッチまで大使館にご用意いただいた車で移動。途中、バラ園に寄りましたが開花には少し早かったようです。残念。着いたらすぐにチェックインし、そのままセインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）へ。

クラシックなどとても素敵な会場でゼミ方式のワークショップを開催。イースト・アングリア大学(University of East Anglia)及びノリッチ芸術大学 (Norwich University of the Arts)の学生を中心とした約20名と、課題作品『柳の木』『イグアナの娘』を題材に萩尾作品の、少女まんがという媒体の持つ深みを体感してもらえるようなやり取りが展開された。萩尾から、同行したマネージャーも初めて聞くというエピソードが語られるなど、充実したワークショップでした。「マンガ」という表現をより身近に理解を深めてもらえたのではないだろうか。

ワークショップ後は SISJAC 関係者ほかと意見交換夕食会に出席。

● 5月25日（土）

ノリッチからロンドン・ヒースロー空港への移動中は、大英博物館の松葉さんと、歌舞伎を中心に、日本文学や英米文学における「色悪」や「悪女」と言う存在に関してのやり取りなどがあり大変興味深く、意義ある時間を過ごしました。

● 5月26日（日） 東京・羽田空港 無事帰国。

<まとめ>

連日駆け足ではありましたが、英国において日本の「マンガ」がどのような存在か（もっと読まれて欲しい！）感じられるとともに、さらに普段日本で仕事しているときよりも大きな視点で「まんが文化」を考える事ができる貴重な体験でした。この経験を活かし、「マンガ」が

世界でもっと身近に読まれていくよう努めて参ります。

**関連文献**

\* 「芸術新潮」 (新潮社) 2019年7月号=記事(p98-101)

\* 「月刊フラワーズ」 (小学館) 2019年8月号=レポート作品(p157-159)